



みどり



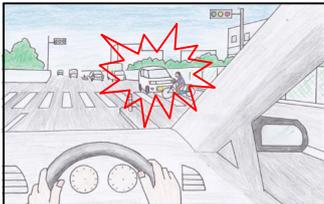
135号 『交通事故に遭遇した時の救命処置』

2019年6月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1

<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

自動車は日常生活の移動に便利で欠かせない身近な乗り物です。しかし、その便利さとは裏腹に時に自動車は危険な凶器にもなりえます。一瞬の不注意によりひとたび自動車事故を起こすと人の生死に関わる重大な事故に繋がります。決して他人事ではありません。今回は実体験を元に自動車事故現場に遭遇した時の救命処置についてご紹介させていただきます。

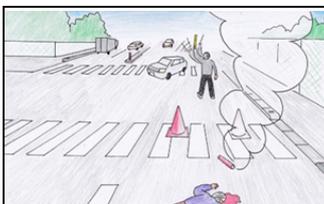
交通事故現場に遭遇



ある月曜日の朝、職場に向かう途中に交差点の信号待ちでそれは起きま



周囲の方に協力を仰ぎ救急車を呼び、周囲の交通整理をしました。



交差点で車に衝突した人は激しい衝撃音と共に宙を舞



救急車が到着するまでの時間、なす術もなくただ茫然と立ち尽くして

私は通勤ルートの幹線道路の丁字路で信号待ちをしていました。そこは時差式信号で反対車線は青信号でした。反対車線の軽自動車は横断歩道に差し掛かった瞬間、突然自転車に乗った男性が横断歩道を渡ろうとし軽自動車と衝突しました。自転車の男性は衝突の衝撃でまるでサッカーのゴールキックのように空中を飛んでいきました。私はすぐに車のハザードランプを点灯させ車から飛び出し、同時に車から飛び出した方に 119 番への通報を依頼し被害者の様態の確認に向かいました。被害者は衝突現場から約 30m 先の車道に頭と右足から血を流しうつ伏せで倒れていました。肩を叩きながら「わかりますか？」と何度も呼びかけましたが意識はなくピクリとも動きません。そこからどうして良いのかわからなくなりパニックになりましたが 2 次災害を起こさないように周囲の人と協力し発煙筒を灯しカラーコーンを立てて交通整理を行いました。その後、救急隊員と連絡を取っていた方から脈の確認と被害者を仰向けにするよう指示を受けました。脈拍があることは確認出来ましたが被害者は頭から血を流しており安全な場所に移して仰向けにする勇気が有りませんでした。現場付近の会社の方が AED を用意して下さいましたが被害者の周囲で立ちすくみそれ以上何も出来ませんでした。間もなく救急車のサイレンが聞こえ安堵しました。

正しい救命処置の手順

突然の事故に遭遇した場合多くの方がパニックになり適切な処置が出来ずただ茫然とする可能性があります。そうならないようにする為に正しい救命処置の手順についてご紹介します。

① 安全の確認

倒れている人に近づく前に周囲を確認し自分自身の安全を確保してから近づきます。

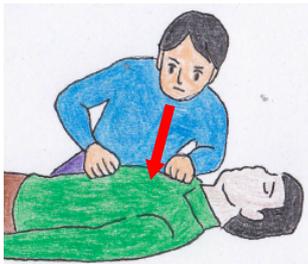
② 意識の確認

「大丈夫ですか」や「わかりますか」など呼びかけながら肩を叩いて反応を確認します。

③ 119 番への通報と周囲の方に協力を依頼

周囲に人が居たら協力を求め、119 番通報や AED の準備を依頼します。

④ 呼吸の確認



倒れている方が「普段通りの呼吸」をしているか確認します。反応はないが「普段通りの呼吸」をしている場合は救急隊の到着を待ちます。

⑤ 心臓マッサージの実施（※心停止の場合）

胸や腹部の動きがない場合、約 10 秒間確認しても呼吸の状態が分からない場合、しゃくりあげるような、途切れ途切れに呼吸がみられる場合に心停止と判断し胸骨圧迫を判断します。

⑥ 人工呼吸の実施（※呼吸停止の場合）



30 回の胸骨圧迫が終わったら直ちに気道を確認し人工呼吸 2 回行います。※口からの出血など感染症の恐れがある場合、人工呼吸は省略する。

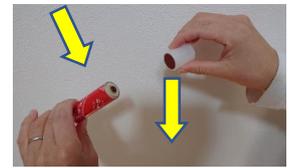
⑦ AED の使用（※心停止の場合）

胸骨圧迫と人工呼吸を行っている間に AED が届いたら直ぐに AED を使う準備をします。

注意事項

今回遭遇した事故では被害者は意識が無くうつ伏せで頭から血を流し右下腿を開放骨折している状態でした。このように意識が無い場合は首の骨を痛めているものとして首を動かさないよう注意して仰向けにし、救急隊が到着するまで頭を両手で抑え首が動かないように固定します。下腿の開放骨折は骨が折れて変形しているので無理に元の形に戻してはいけません。

次にこのような現場に遭遇した時に慌てずに行動出来る為に必要な基本事項を紹介します。



今回活躍した発煙筒はほとんどの車は助手席の BOX の下に設置されています。キャップを外して矢印を擦り合わせると煙が出ます。



次に AED です。AED が設置してある場所には左の写真の様な表示があります。

主に公共施設や民間企業などに設置してありますが通勤途中などどこに AED が設置してあるか予め知っておくことが大切です。「日本救急医療財団全国 AED マップ」

(<https://www.qqzaidanmap.jp/>) を活用するなどして事前に把握しましょう。また、各自自治体



の消防署で定期的に「救命講習会」を実施しております。修了すると証明書を貰えます。

最後に

交通事故は一瞬の不注意で人の命を奪います。被害者にも加害者にもなりたくないものです。そして、偶然その場に居合わせた時に一人でも多くの方が救命救急を実行出来る人が増えれば幸いです。 (文責：上本 慎吾)